



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの 10月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.188 2022.10

紹介内容 (9/1~9/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 石巻農改：パソコン簿記研修会を開催しました
 - 大崎農改：大崎4Hクラブが取り組む親子農業体験を開催しました
 - 気仙沼農改：気仙沼農業改良普及センター第1回普及活動検討会を開催しました
 - 仙台農改：営農ソフト（ほ場管理システム）に関する第1回勉強会（基本編）を開催しました
 - 仙台農改：営農ソフト（ほ場管理システム）に関する第2回勉強会（実践編）を開催しました
 - 石巻農改：我が家のライフプランを考えました
 - 美里農改：令和4年度第1回美里地域農業普及活動検討会を開催しました
 - 大崎農改：飼料用とうもろこしの収量調査を行いました
 - 石巻農改：令和4年度第1回石巻地域普及活動会を開催しました
 - 石巻農改：JAいしのまき大豆現地検討会が開催されました
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 美里農改：令和4年度美里4Hクラブ 先進地視察研修が開催されました
 - 亘理農改：いちご産地での就農を目指して研修がスタートしました
 - 亘理農改：農業大学校の先進農業体験学習開始式が開催されました
 - 栗原農改：先進農業体験学習が始まりました
 - 大崎農改：先進農業体験学習会の開始式を開催しました
 - 大河原農改：農業大学校生の先進農業体験学習が始まります
 - 石巻農改：石巻4Hクラブ9月青空市
 - 登米農改：第1回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
 - 石巻農改：みやぎ農業未来塾「石巻地域の農業紹介講座」を開催しました
 - 仙台農改：仙台農業士会第1回研修会が開催されました
 - 栗原農改：栗原農業士会員が互いの経営を学び合う視察研修会が開催されました
 - 仙台農改：農業大学校の学生が先進農業体験学習をしている受け入れ農家を訪問しました
 - 大崎農改：みやぎ農業未来塾を開催しました
 - 美里農改：先進農業体験学習に取り組む農業大学校1年生の巡回指導を行いました
 - 大崎農改：認定新規就農者を対象に巡回しました
- ③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・ 10
 - 仙台農改：第5回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました
 - 仙台農改：令和4年度第1回仙台地域農業普及活動検討会を開催しました
 - 石巻農改：みやぎアグリテックアドバイザー派遣研修（ドローン）を開催しました！
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - 石巻農改：石巻地域さつまいも拡大推進セミナーを開催しました
 - 仙台農改：大郷町でえだまめの収穫が始まりました

- 仙 台農改：ＪＡ新みやぎあさひなぶどう部会講習会が開催されました
 - 気仙沼農改：ＪＡ新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の現地調査が開催されました
 - 登 米農改：ＪＡみやぎ登米迫カボチャ生産部会の現地検討会が開催されました
 - 大 崎農改：なすの糖蜜土壌還元消毒実演会を実施しました
 - 気仙沼農改：令和４年度気仙沼・南三陸せり栽培研修会を開催しました
 - 大 崎農改：ねぎの追肥作業を行いました
 - 栗 原農改：そらまめ栽培講習会が開催されました
 - 登 米農改：ＪＡみやぎ登米キャベツ部会の現地検討会が開催されました
 - 栗 原農改：ズッキーニ立体栽培講習会を開催しました
 - 石 巻農改：アスパラガスの先進地事例を学ぶ
 - 大 崎農改：ＪＡ古川そらまめ栽培講習会が開催されました
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 石 巻農改：麦の栽培講習会が開催されました
 - 亘 理農改：亘理町農業委員会主催の水稻講習会が開催されました
 - 石 巻農改：いしのみき４Ｈクラブ９月青空市
 - 大 崎農改：若牛会の定例会が行われました
 - 大 崎農改：大豆の現地検討会が開催されました
 - 登 米農改：水稻種子生産ほ場の第２期ほ場審査を行いました
 - 大 崎農改：子実とうもろこし現地見学会が開催されました
- ⑥ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 大 崎農改：「金のいぶき」収穫前研修会を開催しました
- ⑦ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 美 里農改：「美里町北浦梨フェア 2022」好評開催中！
 - 登 米農改：米川地区ほ場整備事業に向けた先進地視察が行われました
 - 登 米農改：〈第２報〉登米市津山町沢田集落と石巻専修大学との交流会が開催されました
 - 気仙沼農改：トマトケチャップづくり講習会を開催しました
 - 石 巻農改：石巻地域生活研究グループ員が３年ぶりに販売会に参加しました
 - 大河原農改：地域資源活用による地域特産品づくり講座の開催
- ⑧ 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 石 巻農改：みどりの食料システム戦略（グリーンな栽培体系への転換サポート事業）の現地検討会を開催しました
- ⑨ 大規模自然災害からの復旧・復興・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 石 巻農改：（株）宮城リスタ大川にて水稻の刈取適期勉強会を開催しました
- ⑩ 要請・緊急対策、その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 仙 台農改：大学生のインターシップを取り入れました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○パソコン簿記研修会を開催しました！ 令和4年9月1日 石巻農業改良普及センター



石巻管内では自らの経営改善と経営管理能力の向上を目指す若手農業者や女性農業者が多く、昨年度に引き続き、農業簿記ソフトを利用した簿記記帳に関する研修会を開催しました。

今回の研修会では、パソコン簿記の基本的な操作や勘定科目の設定方法、簡易振替伝票の入力などの実習を行いました。

参加者はやや少なかったものの、講師のわかりやすい説明により実際の設定や入力などについて全員が滞りなく操作されており、今回の内容については十分に御理解いただけたものと思われま

す。普及センターでは、令和5年1月に決算処理や次年度繰越などを中心とした2回目の研修会を開催する計画で、今後も若手農業者等を中心とした経営管理能力の向上に向けた支援を行ってまいります。

○大崎4Hクラブが取り組む親子農業体験を開催しました。 令和4年9月7日 大崎農業改良普及センター



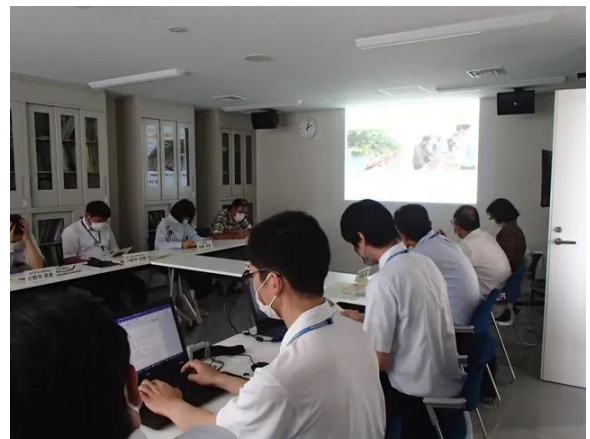
大崎4Hクラブが、令和4年8月28日(日)に大

崎生涯学習センターとともに「親子でいっしょに農業体験&家庭菜園講座」を開催しました。大崎地域在住の小学生とその親を対象に、農業へ興味を持ってもらうことや、食育を目的として毎年取り組んでいるイベントです。

3回シリーズの最終回となる今回は、親子16組、30人以上が参加しました。当日はあいにくの雨模様だったため、当日は4Hクラブ員がほ場からえだまめを刈り取り、生涯学習センターの軒先でさやをもぎ取る体験をしました。5月にたねまきを行ったえだまめが立派に実り、参加した親子は真剣な表情で1つ1つもぎ取っていました。

大崎農業改良普及センターでは、今後も大崎地域の青年農業者の活動の支援に取り組んでまいります。

○気仙沼農業改良普及センター第1回普及活動検討会を開催しました 令和4年9月7日 気仙沼農業改良普及センター



令和4年9月1日、宮城県気仙沼合同庁舎において、第1回普及活動検討会を開催し、外部評価委員7人に対して、本年度の普及計画や最重点課題として取り組むプロジェクト課題を説明し、検討していただきました。

当普及センターでは、本年度のプロジェクト課題として、①市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展、②いちごの栽培技術レベルアップによる収量向上、③持続的な集落営農の実現に向けた担い手の経営安定の3課題に取り組んでいます。

普及センターによる栽培技術の向上支援だけでなく、先進地や高い技術を持つ生産者との交流、試験研究機関等の視察、専門的な技術を持つ農薬メーカー・鳥獣害対策の専門家とのマッチング、各種事業の活用支援などを総合的に御評価いただきました。一方、将来に向け管内だけでなく全県的な目標を設定し取り組んでいくことの重要性、結論ありきではなく、総合的に対象者の利益になるよう多様な選択肢を検討することや同じ課題を抱える地域、生産者へ成果を水平展開していくことの必要性など、各委員からは計画の対象・期間にとどまらない大局的な御指摘や掘り下げた御意見もいただきました。これらの御意見を反映しながら対象者を支援し、地域農業の発展につなげていきます。

国際情勢の不安定化が、農業にとっても大きな影響として出ていますが、普及センターでは地域で農

業を支える皆様を支援していきます。県民の皆様のニーズに合った支援ができるよう、地域の皆様も、普及センターにお気軽にご意見をお寄せください。

○営農ソフト(ほ場管理システム)に関する第1回勉強会(基本編)を開催しました
令和4年9月8日
仙台農業改良普及センター



令和4年7月29日に、JA仙台岩切支店で、(農)岩切生産組合を対象に、営農ソフト(ほ場管理システム)に関する勉強会を開催し、組合員が8名出席しました。組合から、上記ソフトの1つである「アグリノート」の利活用について指導要望が挙がり、今回「みやぎアグリテックアドバイザー派遣事業」を活用して、株式会社キセキ東北の担当者を講師としてお招きしました。

勉強会では、営農ソフトの操作及び活用方法(基本編)について講義いただきました。

参加者全員が、スマート農業に関心を示し、営農ソフトの使用方法について質問していました。

宮城県では、スマート農業の導入を検討されている方や、導入したものの上手く活用できていない方を対象に、円滑な利活用のため「みやぎアグリテックアドバイザー」を派遣しています。

普及センターでは、スマート農業等アグリテックの推進をまいります。



○営農ソフト(ほ場管理システム)に関する第2回勉強会(実践編)を開催しました
令和4年9月8日
仙台農業改良普及センター



令和4年8月29日に、JA仙台岩切支店で、(農)岩切生産組合を対象に、2回目の営農ソフト(ほ場管理システム)に関する勉強会を開催し、組合員が8名出席しました。当組合では、上記ソフトの1つである「アグリノート」の効果的な活用方法を模索しており、今回「みやぎアグリテックアドバイザー派遣事業」を活用して、株式会社キセキ東北の担当者を講師としてお招きしました。

今回の勉強会では、担当者から「アグリノートの操作(実践編)」について、実際の操作をメインに講義いただきました。

前回参加者と今回は初めての参加者で、理解度に差がありましたが、実際に操作する場面では組合員同士で教え合う様子も見られ、基本的な作業(ほ場登録・作業指示など)は、概ね理解したようです。

宮城県では、スマート農業の導入を検討されている方や、導入したものの上手く活用できていない方を対象に、円滑な利活用のため「みやぎアグリテックアドバイザー」を派遣しています。

普及センターでは、スマート農業等アグリテックの推進をまいります。



○我が家のライフプランを考えました
令和4年 9月 12日
石巻農業改良普及センター



女性農業者キャリアアップ講座として、8月26日にoffice305の田中美和子氏を講師にし、ベジ☆hope等女性農業者5人を対象に、ライフプランセミナーを開催しました。

今回は、子供の大学進学を前提とした教育費がテーマで、計画的な貯蓄の必要性や奨学金の活用方法等に関するお話でした。教育費の現状や資金繰り、奨学金の制度や返済方法など具体的に紹介いただき、受講者は熱心に学んでいました。また、事前に1年、3年、5年後にどんな自分になりたいかを記入してもらいましたが、子供中心ではなく、自分中心の将来を描く努力をして欲しい、子供にとって母親の幸せと笑顔が一番うれしいという講師の言葉が大変印象的でした。

女性農業者からは、子供が小さい時は、将来のことが漠然としていたが、今回の受講で具体的な対策が見えてきた、将来の自分の姿と合わせてライフプランを考えていきたいという感想がありました。

今後も、普及センターでは様々な行事を通して、女性農業者の交流を進めていきます。

○令和4年度第1回美里地域農業普及活動検討会を開催しました
令和4年 9月 16日
美里農業改良普及センター

美里農業改良普及センターでは、農業者等のニーズに対応し、より高い成果を創出する普及指導活動を行うため、活動計画とその活動実績、目標の達成状況等について、外部委員の客観的な視点から評価をいただき、次年度以降の普及指導計画の改善を図るために普及活動検討会を開催しています。

令和4年度第1回の検討会を8月30日に普及活動検討委員7名に出席いただき開催しました。

今回は、令和4年度の普及指導計画の概要について説明し、3つのプロジェクト課題について取り組み状況や今後の活動計画について説明しました。

今年度新規課題の「土地利用型農業法人が取り組む加工業務用のにんじんの生産安定」については、現地を視察し、普及センター職員から説明を行った後、支援対象の農業法人代表より取り組みについて説明をいただきました。今年については、夏作のにんじんで、

7月中旬の大雨による浸冠水の影響で収穫が皆無になったほ場が多かったことなどをお話しいただきました。委員からは、土地利用計画や輪作体系等について質問が出されました。

現地視察後に行った総合検討で、委員からは、「対象と同様の課題を持つ法人も多いことから、支援を通じて得たノウハウを蓄積し地域で波及することを期待している。」「栽培年数が浅い品目では、引き続き栽培データの提供や栽培マニュアルの高度化をお願いしたい。」等の意見をいただきました。

普及センターでは、今回の普及活動検討会でいただいた評価や意見を踏まえ、より成果の上がる普及活動に取り組んでまいります。



○飼料用とうもろこしの収量調査を行いました
令和4年 9月 13日
大崎農業改良普及センター



令和4年8月22日（月）に加美町に設置した飼料

用とうもろこし実証展示ほにおいて、収量調査を行いました。実証展示ほは、輸入飼料の価格高騰等の対策として、自給飼料の増産を図るため飼料作物の生産技術向上と生産性の高い優良品種の普及拡大を目的に設置されたものです。当普及センター管内では、加美町の酪農家の協力を得て2品種（パイオニア 118日、スノーデント 115）を栽培しています。令和4年4月26日に播種してから118日を迎え、収穫期に近づいた飼料用とうもろこしは、稈長が約300cmと順調に生育し、例年通りの収量が得られる見込みです。普及センターでは、引き続き管内畜産農家の自給飼料生産技術向上を支援していきます。

○令和4年度第1回石巻地域普及活動検討会を開催しました
 令和4年9月19日
 石巻農業改良普及センター



8月30日に「令和4年度第1回石巻地域普及活動検討会」を開き、石巻地域の普及指導計画プロジェクト課題等の効率的かつ効果的な推進を図るため、農業者や市、農協等の外部検討委員8人から意見を聞きました。

現地検討では東松島市の（株）DannyFarmの星名代表から、施設ナス栽培の環境制御システムや収量アップに向けた仕立て方の工夫等について話を聞き、長ネギ栽培で新規就農した半澤氏からは、新規就農のきっかけやねぎ栽培への熱意を聞きました。



総合検討では、プロジェクト4課題（①管内全体のいちごの産出額向上、②3法人を対象とした園芸法

人の育成強化、③アスパラガス採りつきり栽培の導入・定着、④土地利用型3法人を対象とした長面地域の持続的な水田農業の実現）について、半年間の活動状況と今後の活動計画をリーダーが説明しました。

委員の方々からは、夢や希望をもって農業に取り組む人がいる一方で、生産費が高騰しており、どの作物についても、安定した品質、収量で販売額が増えるよう、関係機関と情報を共有し、引き続き生産者や法人にあった指導、支援、巡回をしてほしいといった御意見をいただきました。

今回の検討会での御意見等を参考に、今後の普及活動を計画的かつ効率的に実施していきます。

○JA いしのまき大豆現地検討会が開催されました
 令和4年9月21日
 石巻農業改良普及センター



JA いしのまき転作部会主催の大豆現地検討会が8月19日に管内全域（石巻市、東松島市）、23日に河南地区で開催されました。石巻管内では、大豆が約2,300haで栽培されており、県内でも有数の産地となっています。

現地検討会では、各ほ場において大豆の生育や雑草・病害虫の発生状況などを確認し、各ほ場の管理状況や今後の栽培管理のポイント、大雨被害の技術対策について説明しました。管内では7月15日から16日にかけて大雨があり（15日 88.5mm、16日 51.5mm）、浸水・冠水したほ場では大豆が枯れたり、湿害による生育の不良となりました。現地検討会で巡回したほ場でも大雨の被害を受けたほ場があり、

そのようなほ場では生育量が小さく根はりが悪い状況です。普及センターからは大雨被害で生育量が小さいほ場では中耕・培土を行うことで生育が回復できることを説明しました。また、タバコガ類による葉の食害があるほ場もあり、できるだけ幼虫が小さいうちに早めの防除を行うよう呼びかけました。参加した生産者は、ほ場の状態や大豆の生育に注意を向け、今後の栽培管理について活発な意見交換が行われました。

大豆の刈取は11月上旬頃から行われる予定です。普及センターでは、今後も生育調査や技術情報の発行、栽培指導などを通して高収量・高品質の大豆栽培に向けて、生産者の支援を行っていきます。

②新たな担い手の確保・育成

○令和4年度美里4Hクラブ 先進地視察研修が開催されました 令和4年9月6日 美里農業改良普及センター

美里4Hクラブは、美里農業改良普及センター管内の若手農業者から構成され、クラブ員同士の技術研鑽や情報交流を目的に様々な活動に取り組んでいます。その活動の一環として、県内の先進的な取組みを行っている農家を訪問し、クラブ員の栽培及び経営管理能力向上等を目指すことを目的とした、先進地視察研修を8月25日（木）に開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、2年ぶりの開催となった今回は、蔵王町の関口英樹氏と仙台市の相原美穂氏の農場にお伺いしました。

関口氏は、カレーリーフやなす、ピーマン、ししとうといった多数品目の栽培に取り組んでいます。また、消費者ニーズを把握するために多方面から情報を収集し、栽培品目の追加を積極的に行っています。

相原氏は、都市近郊型農業と美里町での土地利用型農業の両立と、専門学校生と連携した有機野菜の栽培を行っており、多数の地域や人材との関わりを持ち、独自の農業経営を確立しています。

クラブ員は、両者の説明に聞き入り、栽培のポイントや経営について積極的に質問するなど、充実した研修となりました。

普及センターでは、今後も地域農村青年の技術研鑽や情報交流を支援し、地域農業の担い手の確保及び育成をしていきます。



○いちご産地での就農を目指して研修がスタートしました

令和4年9月6日
亶理農業改良普及センター



（一社）亶理郡農業振興公社は、平成28年度から亶理町内でいちごを生産し農業者になりたい方を対象として、いちごの技術研修を行っています。

研修員は、亶理町の浜吉田いちご団地内にある「亶理いちごファーム」において、公社の従業員から指導を受けながら、実際にいちごの栽培管理に携わるという実践的な研修を受けることができます。

今回、令和4年9月から1年間、亶理いちごファームで研修に取り組む研修員が1名決定し、開講式が開催されました。

研修員の方からは、亶理町でいちご農家として就農することを目標に1年間がんばりたいとお話がありました。

普及センターとしても、関係機関と連携しながら、講習会への参加を誘導するなど積極的な支援に取り組んでまいります。

○農業大学の先進農業体験学習開始式が開催されました

令和4年9月7日
亶理農業改良普及センター

宮城県農業大学の先進農業体験学習開始式が令和4年9月5日（月）に亶理農業改良普及センター会議室で開催されました。

この先進農業体験学習は、農業大学校1年生のカリキュラムで、実際に農業経営者からの農作業指導や体験談を通じ、農業技術や農業経営への理解を深める研修です。

今年度は水田経営学部、園芸学部、アグリビジネス学部の計14人の大学校生が、管内11経営体を受入れ先として9月5日から10月7日までの33日間に渡って研修に励みます。

参加した大学校生は、少し緊張している様子でしたが、受入れ先の方々から「分からないことがあったら何でも質問して」などといった温かな声掛けをされていました。

33日間、怪我に注意して研修が実りあるものになるよう1日1日を大切に学んでいただき、終了式には成長した姿が見られることを期待します。

普及センターでは、今後も地域の担い手の確保・育成に努めていきます。



○先進農業体験学習が始まりました
令和4年9月8日
栗原農業改良普及センター



9月5日(月)に、宮城県農業大学校の先進農業体験学習開始式が栗原合同庁舎で行われ、33日間の体験学習が始まりました。これは、技術の向上のみならず、学生と人や地域のつながりを図ることを目的とし、先進農家の元で行われる学習です。今年度、栗原管内では4名の学生を受け入れており、開始式では受け入れる農家4名との顔合わせを行うとともに、体験学習を行う上での諸注意を確認しました。学生はやや緊張した面持ちでしたが、これから始まる体

験学習に期待をふくらませている様子でした。10月7日の終了式で一回り成長した姿を見られるように、普及センターでは研修中も支援していきます。

○先進農業体験学習の開始式を開催しました
令和4年9月8日
大崎農業改良普及センター



宮城県農業大学校1年生は、令和4年9月5日から10月7日までの33日間、大崎管内の先進的な農家で体験学習を行います。先進農業体験学習初日である令和4年9月5日に、農大生、受入農家が一堂に会し、開始式が行われました。大崎農業改良普及センター所長から、農家へは受け入れに感謝を伝え、学生には激励の言葉を送りました。学生は緊張した面持ちでしたが、体験学習が終わる頃には、受入農家の指導のもと、様々な農作業を経験して、成長した姿が見られることを期待しています。

普及センターでは、今後も農業大学校と連携しながら、新規就農者を含め地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○農業大学校生の先進農業体験学習が始まります!
令和4年9月9日
大河原農業改良普及センター



9月5日に大河原合同庁舎で、農業大学校が主催する先進農業体験学習の開始式が開催されました。本体験学習は農業大学校の1年生が、先進的な農業

経営を実践されている農業者のもとで、約1ヶ月間農業技術や経営を学習し、将来における就農などの指針とすることが目的です。

当日は大河原管内で体験学習する学生4名と受け入れ農業者が出席し、農業大学校からは体験学習中の注意事項や今後のスケジュールについて説明されました。また、学生からは体験学習に向けての抱負を述べました。体験学習終了後における学生の成長が楽しみです。

普及センターでは期間中の巡回訪問を通じて、学生の学習が円滑に進むよう努めてまいります。

○石巻4Hクラブ9月青空市 令和4年9月12日 石巻農業改良普及センター



9月6日(火)午前11時30分から午後1時まで石巻合同庁舎ロビーにおいて、石巻地区4Hクラブ9月青空市を開催し、若手農業者のクラブ員が栽培した新鮮な野菜や花苗などを直売し、消費者との交流を行いました。

ハウスぶどう「シャインマスカット」は甘くておいしいと人気が高く、ゴーヤは新鮮で安い、花苗(ナデシコ、ケイトウ等)もきれいで長持ちすると好評で、県民の方や合庁に勤務する職員など約70人のお客様が訪れ完売しました。

新型コロナ BA5 対策強化宣言中のため、アクリル板衝立や手指消毒等対策を行いながら青空市を開きました。

現在、石巻地区4Hクラブ(会員15人)は、石巻市と東松島市の農村青少年が次代の農業を担う知識と技術の習得を図るため、情報交換や研修、青空市など自主活動を行っています。

○第1回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました 令和4年9月13日 登米農業改良普及センター

普及センターでは普及活動の改善を図ることを目的に、課題設定や計画、活動状況等について外部委員から意見を求める普及活動検討会を開催することとしており、令和4年8月31日(水)に、第1回目の検討会を開催しました。

今回は、普及活動の中心となる令和4年度普及指導計画と、2つのプロジェクト課題活動について説

明し、各委員から御意見をいただきました。

2つのプロジェクト課題は今年度からの新規課題であるため、課題設定の背景や活動の目標、8月までの活動状況等について、スライド化した現地の活動写真を使いながら説明しました。

プロジェクト課題No.1の「加工用ばれいしょ栽培技術の向上」については、「支援対象作物が加工用ばれいしょなのはどのような理由なのか?」との御質問があり、機械化体系が確立していることや販売先が安定していることなどについて説明しました。

プロジェクト課題No.2の「農地整備を契機とした地域営農体制の構築」については、「法人化の話し合いでは、設立間際になってもめることもあるので、早くから課題を明確にしてしっかり議論することが必要である」との御意見をいただきました。

また、最後の総合検討の場では、普及活動全般に関する様々な御意見をいただきました。

普及センターでは、今回各委員からいただいた御意見を参考に、効果的な普及活動の推進に努めることとしています。



○みやぎ農業未来塾「石巻地域の農業紹介講座」を開催しました。 令和4年9月14日 石巻農業改良普及センター



令和4年9月7日に、令和4年度みやぎ農業未来塾「在学者コース～石巻地域の農業紹介講座②」を開催しました。

本講座は、高校在学中の学生を対象に石巻地域農業の優良事例を紹介し、進路選択の参考と学習意欲の向上を図る目的で開講しました。

今回は、石巻北高校食農系列2年生35人を対象に、石巻地域の施設園芸型農業法人の取組紹介として、石巻市の有限会社サントマトを訪問し、同社代表

取締役から、大型園芸施設での栽培の様子や、自社ブランドの高糖度トマトの販売戦略等について説明を受けました。

生徒らは、養液栽培を初めて目にしたとのことで、積極的な質問や、興味深くメモをとる等、農業の現場に刺激を受けた様子でした。当普及センターでは、本県農業を担う新たな担い手の確保・育成に向けて、引き続き取り組んで参ります。

○仙台農業士会第1回研修会が開催されました 令和4年9月16日 仙台農業改良普及センター



令和4年9月7日に大郷町内において仙台農業士会第1回研修会が開催され、10名の農業士が参加しました。

この研修会は、会員の経営を視察しながら意見交換することにより、会員の相互理解を深め、今後の経営発展の一助とすることを目的としており、今年度新たに会員となった農業士4名のうち青年農業士2名のほ場や施設を視察し、意見交換を行いました。

はじめに、青年農業士の上杉一乃歩氏のりんご園と自宅加工場を視察し、30年前に開園したりんご園の栽培状況や自家農産物を使った農産加工について説明がありました。次に、(有)大郷グリーンファーマーズの園芸施設やライスセンターを視察し、青年農業士の西塚忠樹氏から小松菜の生産や外国人研修生の受入れ、水稻の有機認証等の取組について説明がありました。視察後には、東北・北海道地域農業士研究会及び県農業士会国内先進地農業視察研修会について、参加した役員からの報告を受け、普及センターからは補助事業等の紹介を行いました。

終始活発な意見交換が行われ、有意義な研修会となりました。



○栗原農業士会員が互いの経営を学び合う視察研修会が開催されました 令和4年9月20日 栗原農業改良普及センター

令和4年9月13日(火)に、栗原農業士会(会長：熊谷正幸、会員19人)による令和4年度栗原農業士会経営状況相互視察研修会が開催されました。

本研修会は、会員の農業経営発展に役立てるため、お互いの経営状況を視察し合うもので、今回は金成・若柳地区の指導農業士と青年農業士を訪問しました。

当日は、栗原市内で先進農業体験学習中の宮城県農業大学校生2名も参加し、交流を図ることができました。

はじめに、指導農業士の熊谷正幸氏を訪問し、家族で取り組む酪農経営について話を伺いました。新型コロナウイルス感染症や飼料費の高騰など経営リスクに対して、家族で乗り越えようとする力を強く感じました。

次に、青年農業士の鈴木善典氏を訪問し、施設きゅうり経営について話を伺いました。鈴木氏は、宮城県農業実践大学校(現宮城県農業大学校)の先進農業体験学習をきっかけに就農、専業農家としてきゅうり栽培に取り組んできた姿は研修生にとって大きな励みになったようです。



○農業大学校の学生が先進農業体験学習をしている受け入れ農家を訪問しました 令和4年9月26日 仙台農業改良普及センター



令和4年4月に農業大学校へ入学した学生が、令和4年9月5日から10月7日までの33日間、県内の先進的な農家で体験学習を行っています。

当普及センター管内では14名の学生を受け入れていただいております。9月14日(水)から9月16日(金)にかけて、学習状況等の把握のため、農業大学の先生と普及センター職員が訪問しました。

受入農家からは、「手際よく作業していますよ」「言ったことを素直に聞き、いろいろな質問をしてくれる。要望に応えなければ、とを感じる。」など、うれしい言葉をいただきました。学生からは、「農家の方の機械さばきがすごいと感じた」「大きな機械がいろいろあってびっくりした」「(農家でいただく)御飯がおいしい!」と、様々な声が聞かれました。

体験学習は、技術的なことを学ぶだけでなく、農家の生活スタイルを学ぶことができる貴重な機会です。この体験学習が終わる頃には、一人一人がぐっと成長した姿が見られることを期待しています。

普及センターでは、今後も農業大学校と連携しながら、新規就農者を含め地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

宮城県農業大学校について詳しくは下記 URL (アドレス) をご覧ください。

宮城県農業大学校ホームページ：
<https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/>

○みやぎ農業未来塾を開催しました。

令和4年9月26日

大崎農業改良普及センター



大崎管内では最近、肉用牛生産に取り組む若手新規就農者が多いことから、同業者同士の交流や仲間づくりを目的として、令和4年9月9日に、大崎市及び大崎4Hクラブと共催で、みやぎ農業未来塾を開催しました。管内で肉牛生産に取り組む若手新規就農者4名は、大崎市の繁殖牛生産2年目の若手農家と、肥育牛生産3年目の若手農家を視察し、それぞれの経営で大切にしていることや、今後取り組んでいきたいことなどについて興味深く話を聞いていました。

また、今回は、加美農業高等学校農業科の生徒4名、管内で先進農業体験学習を行っている宮城県農業大学校生4名も参加し、先輩農業者との交流を深めました。未来の畜産業を担う担い手同士、話も盛り上がり、よい交流の場となったようでした。

普及センターでは、今後も関係機関と連携しながら、新規就農者を含め地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○先進農業体験学習に取り組む農業大学校1年生の巡回指導を行いました

令和4年9月30日

美里農業改良普及センター

美里農業改良普及センター管内では、宮城県農業大学校1年生8人が9月5日から33日間、先進的経営を行う農業者のもとで生産技術や経営管理を学ぶ「先進農業体験学習」が行なわれています。

9月13日に農業大学校の職員とともに、学生の学習状況や健康状態、生活態度等の確認を行うため、各学習先を訪問しました。

体験学習を開始して約1週間が経過し農作業に体が慣れてきたのか、各学習先で学生が活き活きとした様子で取り組んでいました。

受け入れた農業者からは、「良く話を聞いて仕事を工夫してやっている。」「作業が丁寧だ。」とお褒めのことをいただき、それを聞いた学生が照れくさい表情を浮かべていたのが印象的でした。

学生からは「学校の授業では経験出来ないことを毎日しており楽しい。」といった感想を述べていました。10月の研修終了時は、さらにたくましくなった姿を見せてくれることを期待します。



○認定新規就農者を対象に巡回しました

令和4年9月30日

大崎農業改良普及センター

令和4年9月12日と20日の2日間にわたり、農業次世代人材投資事業(経営開始型)の交付を受けた認定新規就農者を対象としたサポート巡回を大崎市と連携して行いました。



今回は畜産部門（繁殖経営・乳牛）で就農した6名を対象に巡回し、就農計画の達成状況や営農状況を確認し、問題点や今後の課題について意見交換しました。

今回巡回の対象であった認定新規就農者は、計画に対して概ね計画どおりの規模で経営していました。意見交換では飼料価格の高騰や子牛販売額の下落、天候に左右され思うように収穫作業が出来ない等不安要素が多く上げられました。

今後とも普及センターでは、認定新規就農者が就農計画が達成されること目指し、関係機関と連携しながら、支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○第5回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました 令和4年9月14日 仙台農業改良普及センター



当普及センターでは、令和4年度から「水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上」をプロジェクト課題に位置付け、4月から8月まで毎月1回「水稲乾田直播栽培勉強会」を開催しています。8月は「適期刈取り」をテーマに開催し、生産者11名の参加がありました。

普及センターからは、生育状況、成熟期の目安、収穫作業の留意点を説明し、適期刈取りを呼びかけるとともに、栽培管理を振り返り、疑問に思う点などについて参加者全員で意見交換をしました。

稲作の管理作業が落ち着いている時期であったことから、初めて勉強会に参加した法人もおり、不安や

疑問に対して乾田直播栽培で実績のある法人から実践的な助言が得られ、「これまでは忙しくて勉強会に参加できなかったが、これからは忙しくても参加する。」といった声もありました。

普及センターでは、生産者同士のネットワークづくりを推進しながら、今後も水稲乾田直播栽培の技術定着を支援してまいります。

○令和4年度第1回仙台地域農業普及活検討会を開催しました 令和4年9月16日 仙台農業改良普及センター



令和4年9月2日、大郷町保健センターを会場に「令和4年度第1回仙台地域農業普及活動検討会」を開催しました。課題検討に先立ち、プロジェクト課題で支援している大和町落合のシャインマスカットほ場を視察しました。園主のJA新みやぎあさひなぶどう部会の瀬戸副会長は、定年退職後ぶどうの栽培を始めましたが、こまめな管理や房づくりが難しく大変手間をかけていることなど説明がありました。委員からは植えてからどれ位で収穫可能かなど質問がありました。

次に、課題検討会場において4つのプロジェクト課題を1課題ずつパワーポイントで説明した後、質疑応答を行いました。

最後の総合検討では、「RTK 基地局設置等のスマート農業について、大区画ほ場では必要であり、町としても推進したい」という意見や、「えだまめ栽培における補助暗渠等の排水対策が、逆にブロックローテーションで水田に戻しにくいという問題がある」なども話題となりました。

また、普及センターに対し、技術的な指導も含め人材育成や後継者確保支援も喫緊の課題であり、重点的に支援してほしいことや、大規模法人等の支援だけでなく定年退職後にシャインマスカットを丹念に育てている農家など幅広い人々を育てる役割に期待していると話をいただきました。



この検討会で出された意見等を踏まえて、プロジェクト課題等の目標達成に向けて活動してまいります。

○みやぎアグリテックアドバイザー派遣研修(ドローン)を開催しました！
令和4年9月28日
石巻農業改良普及センター



令和4年9月20日にみやぎアグリテックアドバイザー派遣事業を利用した農業用ドローンについての研修会を開催しました。今回は管内で有機農業に取り組んでいる農業法人がドローンの購入を検討しており、機種選定の参考とするために行われました。

研修会では、農業用ドローンの取り扱いに実績のある(株)ケーエスの担当者を講師として、最新のドローン2種について作業時間や散布量、RTKを利用した自動航行についてなどが紹介されました。実際ドローンを運用する際に効率面で重要になるバッテリーの交換・充電や液剤・ペレット剤の散布にかかる作業の違いについてなども説明がありました。対象法人の反応として、実践的なドローンの使用方法を聞くことでドローン選定の際の参考になったようでした。

当普及センターは、アグリテックのさらなる普及支援を行っていきます。



④園芸産地の育成・強化支援

○石巻地域さつまいも拡大推進セミナーを開催しました

令和4年9月1日
石巻農業改良普及センター



みやぎ園芸特産振興戦略プラン(令和3～7年度)において、石巻地域の重点振興品目としてさつまいもが新たに位置付けられました。水田等における収益性の高い園芸作物として、さつまいもの生産及び販路拡大を図るため、令和4年8月24日(水)に当セミナーを開催しました。

ほ場の現地見学では、農事組合法人エコルファーム代表理事の後藤氏から、令和4年は水田135aで「紅はるか」が作付けされ、マルチ、定植、つる上げ、防除、肥培管理などの作業について説明がありました。7月15日の大雨でも高うね栽培のため冠水することなく、順調に生育しています。収穫は10月に行われ、主に加工業者に出荷されます。

講演の部では、株式会社やまもとファームみらい野取締役馬場氏を講師に、さつまいも生産について講演がありました。平成27年に設立され、山元東部地区の100haの農地でさつまいも、長ねぎ、たまねぎ、大豆、いちごなどに組み込まれています。さつまいもの品質・収量の安定に苦労されましたが、先進地視察や指導で、現在ではチェックシートを作成して取り組まれ、輸出も行っています。宮城県で栽培されたさつまいもは、糖度が高く消費者から好評を得ており、生産者を拡大するための研修会を予定しているそうです。参加者からは、収穫調製作業について質問があるなど、導入する上で参考になる内容でした。

普及センターでは、栽培面積を拡大するため、関係機関と協力して技術支援を行っていきます。

○大郷町でえだまめの収穫が始まりました

令和4年9月5日
仙台農業改良普及センター

大郷町では、昨年度から3法人がえだまめ栽培に取り組み、栽培面積は2.3haでしたが、今年度は5法人が取り組んでおり、栽培面積は6haに拡大しました。そのような中、7月15～16日の大雨によって、大郷町内のえだまめは、冠水や浸水の被害を受け、全株枯死により、栽培継続が困難になった法人もありました。

このうち「農事組合法人かすかわ」では、浸水による湿害に見舞われながらも、令和4年8月23日に、今年初めての収穫を迎えました。収穫されたえだまめは、野菜集荷場に運ばれて、粗選別、洗浄、脱水を経て、JA全農みやぎのパッケージセンターへ出荷されました。今回、湿害の影響で目標には程遠い収穫量となりましたが、関係者は、皆で収穫の喜びを味わいました。

出荷されたえだまめは「仙台えだまめ」として県内の量販店の店頭に並びますので、是非御賞味ください。

普及センターでは、JA新みやぎあさひな統括営農センター及び大郷町と連携し、今後も継続して生産者を支援していきます。



○JA新みやぎあさひなぶどう部会講習会が開催されました

令和4年9月6日

仙台農業改良普及センター



令和4年8月30日、ぶどう部会員のシャインマスカット栽培ハウス2か所において「JA新みやぎあさひなぶどう部会 栽培講習会」が開催され、部会員13名が参加しました。

当日は、会場提供生産者から耕種概要や今年度の生育状況等について説明がありました。ぶどうハウス内では、実際にシャインマスカットを参加者とともに見学しながら、果実の生長状況や栽培管理の特徴、次期作に向けた課題等について検討しました。

普及センターでは、シャインマスカットの収穫適期の判断や注意事項の説明のほか、これまでの巡回指導時等に生産者から質問が多かった事項や対応策

を伝え、部会員で共有しました。また、JA担当者より、今年度より新たに実施するパック入りの粒売りぶどうの規格の説明があり、部会での流通量の増加・品質向上に向けた活動をすすめる計画になっています。

普及センターでは、今後も、高品質なぶどうの生産や産地PRに向けて、同部会を支援していきます。

○JA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の現地調査が開催されました。

令和4年9月7日

気仙沼農業改良普及センター



令和4年9月5日、JA新みやぎ主催による南三陸地域花卉生産協議会（旧花卉部会）の現地調査が開催されました。

当日は、生産者4名、JA担当者1名、普及センター1名の他に、仙台中央卸売市場花き市場株式会社仙花の石井常務取締役が情報提供者として参加していただきました。

南三陸町内の彼岸出荷用のキク生産者のほ場3カ所を参加者で巡回しながら、生育状況、病虫害被害の有無、出荷の時期について調査を行いました。

お盆出荷用のキクは7月前半の暑さで開花遅延をおこし、出荷が遅れましたが、お彼岸出荷用のキクは概ね平年並みの生育です。雨の影響で、根が影響を受け、下葉が黄化しているほ場がありましたが、全般的に病虫害被害も少なく、品質の良いキクを需要期に出荷できると思われました。

仙花の石井常務から、南の産地は出荷が早まっているので、南三陸の生産者には9月12日から16日にまとめて出荷して欲しいとエールがりました。

普及センターからは、今後の気象予報などを説明し、台風による風や雨の被害を受けないように準備を呼びかけて終了となりました。

普及センターでは、今後も南三陸地域の花き振興にむけて支援をしていきます。

○JAみやぎ登米迫カボチャ生産部会の現地検討会が開催されました

令和4年9月8日

登米農業改良普及センター

令和4年8月26日、JAみやぎ登米迫カボチャ生産部会の現地検討会が開催され、生産者のほか、種苗会社や関係機関を含め約20名が参加しました。検討会では、講師の(株)渡辺採種場より、摘花や交配について説明がありました。また、普及センターからは、湿害対策について説明しました。今作は大雨の影響もあり、一部で湿害による生育不良も見られましたが、当部会では高品質なかぼちやの出荷に向け、より丁寧な管理を徹底するよう呼びかけています。



○なすの糖蜜土壌還元消毒実演会を実施しました
令和4年9月9日
大崎農業改良普及センター



管内では、なすの連作による青枯病の被害が拡大しており、その抑制による安定生産が課題となっています。青枯病菌は土壌深くにも存在しており、難防除病害です。

そこで今回は、病害発生が特に多いほ場で、生産者とともに糖蜜を用いた土壌還元消毒を実施しました。これは、土壌中に糖蜜をすき込んだ後に湛水し、土壌中を還元状態にして殺菌する技術で、効果が高いとされています。実施後、生産者からは「手法がよく理解でき、効果に期待したい。また、薬剤を使わないため環境への負荷が少ない点が良い。」との声がありました。

普及センターでは、今後もなすの安定生産に向けた支援を行っていきます。

○令和4年度気仙沼・南三陸せり栽培研修会を開催しました
令和4年9月9日
気仙沼農業改良普及センター

令和4年9月2日、せりの栽培技術習得を目的として気仙沼農業改良普及センターと新みやぎ農業協同組合の共催で「令和4年度気仙沼・南三陸せり栽培研修会」を開催しました。当日は、生産者5名、農協担当者3名、南三陸町職員2名、県機関8名、(株)石巻青果の担当者2名が出席しました。座学研修と現地検討の2部構成で行い、座学研修はJA新みやぎ南三陸統括営農センターを会場に、現地検討は南三陸町のせり生産者である阿部高裕氏のは場を会場に実施しました。

初めに、南三陸町産のせりの出荷先である(株)石巻青果から主力産地である河北町の現状について解説いただき、南三陸地域のせりの生産拡大について期待している、とお話いただきました。

座学研修では、県農業・園芸総合研究所野菜部の高橋技師を講師に、せりの県オリジナル品種の特性や今後の栽培管理、病虫害防除を中心に講演いただきました。参加した生産者からは施肥量の質問等があり、栽培技術習得に向けた意識の高まりを感じました。

現地検討では、阿部高裕氏から栽培状況についてご説明いただき、生産者を中心に今後の栽培管理について活発に意見交換する様子がみられました。また、収穫調製の作業性向上が生産者間の共通した課題であり、改善に向けた取組が必要であることを関係機関と共有しました。

気仙沼農業改良普及センターでは、せりの生産拡大に向けて関係機関と協力しながら生産者を支援していきます。

○ねぎの追肥作業を行いました
令和4年9月9日
大崎農業改良普及センター

当普及センターでは、加美町、色麻町のねぎ生産者を対象に、混合堆肥複合肥料を用いた環境にやさしい農業への取組支援を行っています。成分濃度が低い本肥料は、1回の施用量が増える一方、肥効が長いため追肥回数を減らすことができ、省力化が期待できるものです。

当普及センターでは、追肥時の散布にかかる時間を調査しています。今回は、慣行での作業時間を計測しました。次回は、より省力化できる散布方法での計測を予定しています。当普及センターでは引き続き調査を行い、作業の省力化につながる散布方法を検討していきます。



○そらまめ栽培講習会が開催されました
令和4年9月13日
栗原農業改良普及センター



令和4年9月7日(水)、JA新みやぎ栗っこそらまめ部会の栽培講習会がJAの瀬峰野菜集荷場及び志波姫支店会議室で開催され、生産者29名と講師として、種苗会社及び普及センターの担当者が出席しました。今回の講習会では農地整備事業を契機に高収益作物に取り組む地区の担い手や、水田転作で新たにそらまめに取り組む生産者が参加され、栽培を基本から学習しました。栗原市のそらまめ栽培は、転作作物として昭和50年代後半から栽培され、県

内でも主要な産地の一つになっています。

はじめに、種苗会社から播種やほ場準備のタイミングと注意点、パオパオ被覆による冬越しと春先の徐覆後の整枝方法、開花後の乾燥防止など栽培のポイントについて説明がありました。次に普及センターから、そらまめに発生する病害虫の特徴と対策や、薬剤の抵抗性発達を防ぐため、RACコード(農薬の作用機構分類)を参考にしながら、系統の異なる薬剤をローテーションで散布するよう説明しました。また、肥料価格の高騰による生産コスト増加が予測される中、過不足なく適切な施肥を行うため、土壌分析の活用を推奨しました。参加者は、土づくりや栽培管理のタイミング、早期防除の重要性について、知識を深めたようでした。

普及センターでは、同部会員のそらまめの栽培技術向上に向けて、今後も継続して支援していきます。

○JAみやぎ登米キャベツ部会の現地検討会が開催されました
令和4年9月22日
登米農業改良普及センター



令和4年9月16日、JAみやぎ登米キャベツ部会の現地検討会が開催され部会員7名が参加しました。

検討会では、病害虫の防除や品種、肥培管理について確認しました。特に、現地検討を行ったほ場では土壌分析結果を参考にした単肥による肥培管理を実施しており、生産資材費が高騰する中で、肥料費の節減につながる取り組み事例として紹介され、活発な情報交換が行われました。

また、令和4年8月31日に開催された「令和4年度宮城県園芸振興大会」で当部会がみやぎ園芸振興大賞を受賞したことについて報告があり、部会を代表して表彰式に出席した部長から「とても名誉ある賞をいただいた。これに恥じない取り組みを継続していきたい。」と力強い決意が示されました。

普及センターでは、生産性向上に向けた取り組みを支援していきます。

○ズッキーニ立体栽培講習会を開催しました
令和4年9月26日
栗原農業改良普及センター

令和4年8月26日(金)、栗原市瀬峰地区及び築館地区のグリーンな栽培体系への転換サポート事業の検証ほ場を会場に、ズッキーニ立体栽培講習会を開催しました。栗原農業改良普及センターでは、生分解性マルチを使った省力化と立体栽培による軽労化

に関する技術を検証、普及するため、検証ほ場を設置しています。



今回は、立体栽培に関する技術講習と現地検討を通じて、ズッキーニ生産者への技術普及を目的として開催し、生産者24名、JA新みやぎ栗っこ、種苗会社2社の担当者が出席しました。

まず瀬峰及び築館地区の2ほ場で現地見学を行い、生産者から栽培概要、普及センターからは、立体栽培の特徴について説明しました。また、種苗会社からは、今回使用した生分解性マルチ3種類の特徴とズッキーニの今後の管理について説明をいただきました。ほ場では、立体栽培の仕立て方の工夫や注意点など活発な意見交換が行われました。

築館のほ場では実演及び意見交換も行いました。実演では、ほ場主と普及センターが参加者の前で立体栽培の仕立て方を実演し、続いて実際に参加者にも体験していただきました。意見交換会では、普及センターから管内の立体栽培の取組状況について説明した後、検証ほ担当農家3人から立体栽培の所感を伺いました。担当農家からは、「腹白果がほとんど出なかった。」「毎日の収穫や交配が楽になった。」との声がありました。

参加者は、ほ場見学に加えて実際に仕立て方を体験したことや、意見交換を通じて、立体栽培の方法や特徴について理解を深めたようでした。

普及センターでは、ズッキーニの人と環境にやさしい栽培技術の向上に向けて、今後も継続して支援していきます。

○アスパラガスの先進地事例を学ぶ 令和4年9月26日 石巻農業改良普及センター

9月15日(木)にJAいしのまき農業情報センターを会場に生産者等23人が参加し、アスパラガス先進地事例講習会を開催しました。

はじめに、「山形県最上地域のアスパラガスの生産販売状況」について、山形県最上総合支庁農業技術普及課乙坂普及指導員から講演をいただきました。最上地域のアスパラガス栽培は、平成15年の米の冷害をきっかけに最上町が導入し、平成17年に共同選果場を整備しました。その後、平成28年には新庄市に共同選果場を増設、舟形町や鮭川村にも栽培が拡大し、生産者数197人、栽培面積74.7ha、販売量455t、販売額5.2億円の産地に成長したとのことでした。

次に、「アスパラガス産地の近況と販売の工夫事例等」について、パイオニアエコサイエンス株式会社松永氏から、岩手県金ヶ崎町、群馬県、埼玉県の採りつきり栽培や秋田県のハウス栽培など他産地の近況をお話しいただき、長崎県、香川県、北海道など販売の工夫事例についても紹介していただきました。

株式会社石巻青果からは、「石巻市場のアスパラガスの取扱状況」について、3~9月は山形産が多く、9~4月はメキシコ等の輸入物になるので、地元産がほしいとのお話がありました。

石巻普及センターからは、「石巻管内のアスパラガスの生産販売状況」について、栽培面積、販売量、販売額、販売先等の間取り結果を情報提供しました。

コロナ禍の中、山形県など先進地の状況や販売の工夫事例などを学ぶことができ、アスパラガスの普及定着に向け有意義な講習会になりました。



○JA古川そらまめ栽培講習会が開催されました 令和4年9月27日 大崎農業改良普及センター



令和4年9月20日にJA古川本店においてそらまめ部会栽培講習会が開催されました。講習会には11名の生産者が出席し、普及センターが講師として、栽培管理や病虫害防除について説明しました。

令和4年度のそらまめ栽培では、病虫害の発生や

5月の乾燥、その後の低温による品質低下が問題となったことから、対策として病害虫防除の徹底、葉面散布による品質向上に重点的に取り組むよう指導しました。その他、施肥や育苗管理、越冬前後の管理、追肥と土寄せ等の栽培のポイントについて説明しました。

講習会終了後は、生産者から多くの質問があり、そらまめ栽培に対する意気込みが伝わってきました。さらに今年から新規の生産者が2名加わり、増産や今後の部会の活性化などが期待されます。

普及センターでは、今後もそらまめの安定生産のため継続して支援していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○麦の栽培講習会が開催されました

令和4年9月8日

石巻農業改良普及センター



令和4年8月31日にJAいしのまき転作部会において令和5年度産に向けた麦類栽培講習会が開催されました。JA全農みやぎからは、麦類の情勢について、当普及センターからは、麦栽培管理のポイントと肥料高騰対策についてそれぞれの担当者から説明を行いました。

麦類の情勢では、JA全農みやぎより外国産小麦の高騰で価格の引き上げを見越した販売が例年より早く進んでいること、小麦品種「夏黄金」のタンパク含有率の向上や出荷に際しての異種(ソバ等)、ガラス、金属等の異物混入防止の徹底などが実需から要望されている等の説明がありました。令和4年産麦類の作柄は、大麦、小麦ともに好天により適期播種や収穫ができ、概ね良好であったことを報告し、麦栽培管理のポイントは、播種、麦踏み、施肥、排水管理、病害虫・雑草管理などの基本技術の励行であることを伝えました。肥料高騰対策では、支援の対象となる期間、肥料の種類、支援額の算出方法、申請に必要な書類、今後のスケジュール等について紹介を行いました。質疑応答では、補助の対象となる肥料や肥料の価格変動、手続きなどに関する質問が出され、肥料高騰の問題に対する関心の高さがうかがえました。当普及センターでは、令和5年産麦類の高品質・安定生産に向けて引き続き支援を行っていきます。

○亶理町農業委員会主催の水稲講習会が開催さ

れました

令和4年9月12日

亶理農業改良普及センター

令和4年9月7日に亶理町農業委員会主催の水稲講習会が開催され、農業委員20名が参加し、普及センターが講師を務めました。

亶理町役場近くのほ場の生育状況等を確認した後、役場内会議室に移動し座学での講習を行いました。普及センターから「今年度の水稲の生育状況」と題して、出穂25日調査の結果や刈取り適期の判定方法についての話をしました。

農業委員からは、亶理町で今年度から斑点米カメムシ類の防除方法が航空防除から育苗箱処理剤による防除に変わったことを受け、カメムシ類の発生状況や被害状況についての質問がありました。普及センターから、「県病害虫防除所の調査結果では、8月上旬から中旬におけるカメムシ類の発生量は平年並みからやや少なくなっています」と回答しました。参加者からは米の品質を心配する声の一部が聞かれましたが、適期刈取りによる品質の高い米の生産に向けた意気込みが感じられました。

普及センターでは、今後も高品質米の生産と収益性の高い水田農業の確立を支援します。



○若牛会の定例会が行われました

令和4年9月13日

大崎農業改良普及センター

令和4年8月29日(月)に会員宅で若牛会の定例会が行われました。若牛会は、大崎市岩出山、鳴子温泉地区の若手畜産農家により構成される自主的な組織で、顧客に高く評価される子牛生産を目指して、子牛市場における産子検査や県内外の視察研修等の活動を行っています。今回の定例会では、8月の産子検査の結果や全国の子牛市場価格について情報提供し、市況等について情報共有したほか、会員相互の親睦を深めることができました。

普及センターでは、引き続き新規就農者や生産組織等の生産技術向上への取組を支援していきます。

○大豆の現地検討会が開催されました

令和4年9月20日

大崎農業改良普及センター

令和4年7月28日、JA古川主催の大豆現地検討会が開催されました。検討会には生産者40名の他、東北農政局、NOSAI宮城及び普及センターの担当者等が参加しました。

7月中旬の大雨により、古川地域の大豆ほ場では浸冠水被害が発生しました。現地検討会の会場となった富永地区のほ場では、約1日冠水し、大豆の生育の停滞が見られました。普及センターからは、大雨後の管理として、明きょ設置等による排水対策、葉の黄化が見られる場合の追肥、中耕培土の実施を呼びかけました。また、東北農政局やNOSAI宮城からは、今後の支援対策や共済制度の説明が行われました。生産者からは積極的な質問があり、大雨被害からの復旧に向けて意見交換がなされました。

普及センターでは、引き続き大豆の高品質安定生産に向け、きめ細やかな支援を行っていきます。



○水稲種子生産ほ場の第2期ほ場審査を行いました

令和4年9月20日
登米農業改良普及センター



登米管内では、JAみやぎ登米水稲種子採種組合が、約66haの採種ほ場で水稲の種子を生産しています。

普及センターでは「主要農作物種子条例」に基づき、「ほ場審査」と「生産物審査」を行っており、令和4年9月7日に、「第2期ほ場審査」を行いました。

今回の審査では、種子への異品種混入や雑草種子の混入を防止するための最終チェックを行った結果、全ほ場「合格」となりました。

採種ほ場では、9月下旬から順次収穫が始まり、種子センターで乾燥・調製作業が行われます。

普及センターでは、今後収穫された種子の発芽率

などを確認する「生産物審査」を行い、優良種子の安定供給が図られるよう支援してまいります。

○子実とうもろこし現地見学会が開催されました 令和4年9月20日 大崎農業改良普及センター

令和4年9月13日、JA全農主催の子実とうもろこし現地見学会が大崎市で開催されました。今年度3回目となる見学会には、生産者のほか、農機具メーカー、種苗会社、関係機関等約200名が参加し、子実とうもろこしの収穫作業を見学しました。

見学ほ場の子実とうもろこしは、4月20日に播種が行われ、7月11日に出穂が確認されました。7月中旬には豪雨や強風に見舞われましたが、倒伏はなく、大きな影響はないとみられます。子実とうもろこしの収穫適期は、子実水分が30%を下回った頃とされており、この日の子実水分は30.2%と概ね適期の収穫作業となりました。子実とうもろこしの収穫を初めて見る参加者も多く、機械の仕組みや作業工程について興味深く見学している様子でした。

子実とうもろこしの収穫作業は、稲刈り後の10月下旬頃まで続きます。普及センターでは引き続き、関係機関と連携し、子実とうもろこしの生産振興を支援してまいります。



⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○「金のいぶき」収穫前研修会を開催しました 令和4年9月13日 大崎農業改良普及センター



令和4年9月5日に、宮城県米づくり推進大崎地方本部主催の「金のいぶき」収穫前研修会を、美里農業改良普及センター管内の展示ほを会場として開催しました。

研修では、美里農業改良普及センターから、展示ほ場の生育概況や収穫時の留意点について、また、北部地方振興事務所農業振興部から、県内及び管内の生産状況や生産支援事業等の説明を行いました。参加者からは、「展示ほ場ではどのくらいの単収になっているのか」、「等級はどのようになっているのか」などの質問があり、関心の高さが伺えられました。

大崎及び美里農業改良普及センター管内における「金のいぶき」の栽培面積は、令和3年と比較すると約2倍になっており、引き続き、安定生産に向けて、栽培技術指導を行っていきます。

⑦地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○「美里町北浦梨フェア2022」好評開催中！ 令和4年9月6日 美里農業改良普及センター

令和4年9月1日木曜日から「美里町北浦梨フェア」を開催しています。

北浦梨は明治時代に初めて苗木が導入され、栽培に成功したことが始まりとされています。その後、大正時代に本格的な生産が始まり、現在では宮城県内の梨4大産地（蔵王町、利府町、角田市、美里町）に数えられ、美里町における特産品の一つとなっています。

9回目の開催となる今年は、美里町内17店舗と大崎市・涌谷町の3店舗の合計20店舗で北浦梨の販売が行われます。秋の訪れを感じる味わいを、ぜひお楽しみください。

なお、フェア期間中に参加店舗で北浦梨を購入するともらえるスタンプを3つ集めると、美里町の特産品が抽選で当たるスタンプラリーに応募することができます。

おいしくめぐって、美里町のおいしいものを当てちゃいましょう！

お買い物される際は、マスクの着用等の新型コロナウイルス感染症対策にご協力ください。

【開催期間】令和4年9月30日金曜日まで

【開催場所】美里町、大崎市、涌谷町内の北浦梨販売店（合計20店舗）

詳細は、「美里町北浦梨フェア2022」ウェブページをご覧ください。

<https://www.town.misato.miyagi.jp/12kanko/2022-0830-1007-7.html>

○米川地区ほ場整備事業に向けた先進地視察が行われました 令和4年9月9日 登米農業改良普及センター



米川地区は登米市東和町に位置し、地区内中央にある河川の両側に水田が広がる地区です。地区内農地は湧水や山間部からの流水が多く、汎用農地としての利用が難しいほ場も多いため、令和5年のほ場整備事業申請に向けて担い手会議を重ねてきました。

令和4年8月31日に先進地視察が開催され、米川地区と類似した中山間地域の津山町で、ほ場整備事業を実施後に法人経営を展開している農事組合法人フォレストウィンド津山を視察しました。視察には、地区の担い手5人が参加し、ほ場整備事業着工から法人設立までの取組みについて説明を受け、水稻及びねぎの作付け状況を現地見学しました。参加した担い手は、今後の営農形態を検討する上での参考にしようと、水稻直播栽培や飼料用米、園芸作物に取り組んでみての所感など様々な質問をしていました。今後は、担い手会議でこの視察で得た情報を参考に、促進計画がより良いものになるよう改善していく予定です。

ほ場整備を契機に米川地区の営農が活性化されるよう、引き続き支援していきます。



○〈第2報〉登米市津山町沢田集落と石巻専修大学との交流会が開催されました 令和4年9月12日 登米農業改良普及センター

登米市津山町沢田集落では今年から「若者と沢田地区との関係構築による、中山間地域農業の未来創造提案」をテーマに石巻専修大学の学生と連携を図ってきました。学生による企画提案に向け、令和4年8月24日に沢田集落で第2回目の交流会が開催され、現地視察と集落の阿部代表へのインタビューが行わ

れました。現地視察では、とうもろこし「味来」の作付けほ場、鳥獣害対策の状況、未耕作地の除草対策のための羊の放牧状況を見学しました。インタビューでは、とうもろこし栽培、沢田集落や農業の魅力、沢田集落の将来ビジョンなどについて、様々な意見交換が行われました。

翌日には大学内で企画提案発表会があり、学生が交流会を通じて感じた沢田集落が抱える課題やニーズに対して「SNSを活用した情報発信」、「マルシェなど販売会の開催」、「とうもろこしのオーナー制度の展開」、「古民家を活用した地域と学生の連携」、「クラウドファンディングの活用」など、沢田集落の魅力を発信し集落の活性化を促す多種多様なアイデアが提案されました。

今後は学生のアイデアが集落に提案される予定です。普及センターでは、この提案の具体化に向けて、地域住民と学生の連携が今後も続いていくことを期待しています。



○トマトケチャップづくり講習会を開催しました
令和4年 9月 14日
気仙沼農業改良普及センター

令和4年9月6日、気仙沼市のクッキングスタジオで気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会と共催でトマトケチャップづくり講習会を開催しました。講習会には22人の会員が参加し、市内キッチンスペース夢の舎（ゆめのや）シェフの石田幸子氏を講師に迎え、手作りトマトケチャップとケチャップを使用した料理4品の作り方を実習しました。レシピをもとに参加者それぞれが工夫しながら料理を作り上げました。参加者からは、「多くのメニューを実習することができ、とても勉強になった。」と大変好評でした。

気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会では、今後、移動研修会や牛乳料理講習会等の事業を計画しており、当普及センターも事業実施に向け支援して参ります。



○石巻地域生活研究グループ員が3年ぶりに販売会に参加しました
令和4年 9月 27日
石巻農業改良普及センター



石巻地域生活研究グループ連絡協議会のメンバー4人が、宮城県石巻合同庁舎で9月21日に開催されたみやぎ水産の日（毎月第3水曜日）販売会に参加しました。グループとしては、3年ぶりの販売会参加で、商品は、キャベツ、にがうり、甘とうがらし等の旬の野菜やササニシキの新米、梅干しのほか、栗ご飯弁当、ブルーベリームース等の加工品、農産漁家のメンバーが持参したふのり、わかめ等の海産物などバラエティ豊かでした。

普段は、それぞれ、農産物直売所やスーパーの直売コーナーで販売していますが、久しぶりの仲間との販売会で、楽しそうにお客さんをお呼び込んでいました。

今後も、みやぎ水産の日販売会に参加するとともに、来たる11月末の石巻合同庁舎でのロビーコンサートの際にも、販売を実施する予定で、活発に活動しています。

普及センターでは様々な行事を通して、女性農業者の交流を進めていきます。

○地域資源活用による地域特産品づくり講座の開催

令和4年9月27日

大河原農業改良普及センター

丸森町筆甫地区では山菜を活用した地域特産品づくりに取り組んでおり、普及センターでは2カ年にわたりわらび等の栽培技術支援を実施してきました。本年度は山菜の加工品の試験販売を計画し、第3回目としてふきの加工品開発について講座を開催しました。講師には、一般社団法人みのり佐々木理事をお招きし、加工品開発で重要な原価計算や加工の実習を行いました。原価計算は、今回試作している商品について固定費や変動費の考え方にに基づき実際に原価計算を行うなど、実践的な内容を実習しました。特に、加工にかかる作業時間の算出による人件費を算出するなど、きちんと利益が確保できる設計を学習しました。普及センターでは今後も引き続き、試作の改良や保存試験等に取り組み、試作販売に向けて支援をしていきます。



原価計算の実習



試作品の検討

⑧環境に配慮した持続可能な農業生産

○みどりの食料システム戦略(グリーンな栽培体系への転換サポート事業)の現地検討会を開催しました

令和4年9月28日

石巻農業改良普及センター

令和4年9月6日にみどりの食料システム戦略(グリーンな栽培体系への転換サポート事業)の現地検討会を開催しました。今回は、石巻地方米づくり推進会議の現地視察も兼ねた開催となったため、管内2市(石巻市、東松島市)、JAいしのまき、土地改良区の担当者、大学教授、生産者など14人が参加しました。検討会では、本事業で堆肥施用による減肥を実施する直播栽培の実証ほやバイオ炭(籾殻くん炭)を施用した実証試験のほ場を視察しました。当普及センターから、本事業の概要や管内での取り組む実証試験、これまでの生育調査結果等を説明しました。その後の意見交換では、本地域の気象と水稻の生育に関する質問やバイオ炭を農地施用する場合の費用や量についての質問が出されました。本事業では、年度末に検討会を行い、実証試験の結果について報告する予定です。当普及センターでは、みどりの食料システム戦略の実現に向けた取り組みを地域の関係者と連携しながら支援していきます。



⑨大規模自然災害等からの復旧・復興

○(株)宮城リスタ大川にて水稻の刈取適期勉強会を開催しました!

令和4年9月21日

石巻農業改良普及センター

令和4年9月5日に水稻刈取適期判断に関する勉強会を開催しました。本勉強会は当普及センターのプロジェクトの一環で企画され、プロジェクトの対象法人である(株)宮城リスタ大川社員7人が参加しました。

勉強会では刈取適期の判断について実際に宮城リスタ大川が耕作するほ場から採取したサンプルを用いて3種類の予測方法を説明しました。その後、ほ場において登熟状況を確認し、今後の刈り取り予定について話し合いました。長面地区では籾の熟色が青く、刈取適期予測に至らないところもありました。今回

予測出来なかった場合は、今後熟色判断を行い、順次刈り取りを行っていくとのことです。

当普及センターは、これからも復旧農地の担い手への栽培技術支援を行っていきます。



写真1 勉強会の様子



写真2 ほ場で刈取適期予測を行う様子

台農業改良普及センター)において、令和4年8月22日から26日の5日間の1 Week インターンシップとして、農学技術系職種を希望された学生2名を受け入れました。

インターンシップでは、管内の農業生産状況や農業行政事業等の業務、農業改良普及事業等について説明を行うとともに、実際に農業者に対する現地活にも同行していただきました。

8月25日には株式会社みらいファームやまが運営する大和町の「了美(りょうみ)ヴィンヤード&ワイナリー」へ伺い、醸造用ブドウ植栽における開墾作業や栽培管理の苦勞、6次産業化による農業を通じた地域活性化に対する熱い思いを聞くことができました。普及指導員は直接農業者(県民)に接して支援する公務員の中でも特殊な職種であり、様々な業務に従事していることを理解いただきました。

宮城県では、学生の県業務への理解促進及びキャリア形成への支援を目指すとともに、本県組織の活性化を図るため、今後もインターンシップに対応していきます。

⑩要請・緊急対策、その他

○大学生のインターンシップを受け入れました
令和4年9月6日
仙台農業改良普及センター



研修的な就業体験を行うことで職業観の確立や勉学への動機付けの一層の充実を図ることを目的に民間企業や地方公共団体等で行われ、宮城県でも実施しています。インターンシップとは、大学等の学生が在学中にこの度、仙台地方振興事務所農業振興部(仙

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

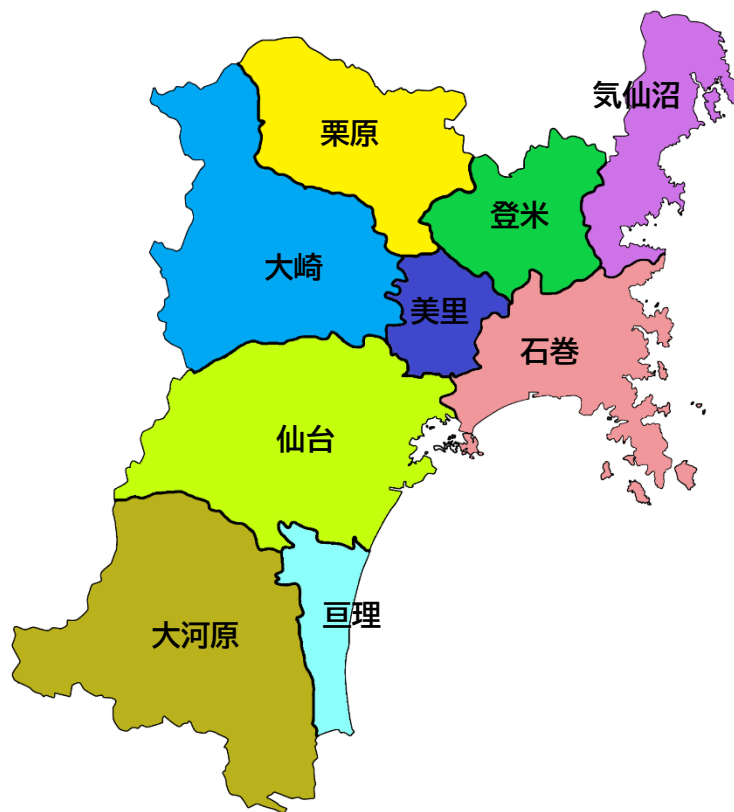
<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.188

発行日:2022年10月14日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp